

小学校外国語教育における地域に根差した教材の開発と共有に向けて

ー 米沢市教育委員会が提携しているグループウェアを活用して ー

教科教育高度化分野 (18220917) 古 川 美 香

学習指導要領の改訂に伴い、小学校では3・4年生で外国語活動、5・6年生で外国語科が新設された。本研究は、新学習指導要領を基にした外国語教育に関する資料や、地域教材を教員が共有することで、現場の負担感を軽減することを目標にしている。そのために、米沢市教育委員会の協力を得て、市内小中学校の全職員がアクセスできるグループウェアを活用することを構想している。

[キーワード] 小学校外国語教育, 地域教材, 共有, グループウェア, 市教育委員会

1 問題と目的

(1) 小学校外国語教育の現状と課題

学習指導要領(平成 29 (2017) 年告示)の改訂に伴い、2018 年度より 3・4 年生の外国語活動と 5・6 年生の外国語科の移行期間が始まった。現段階の学校現場では、小学校教諭が外国語を教えることに対して自信を持ってないという声を多く聞く。外国語活動や外国語の授業の準備に時間がかかり、負担を感じている教員が多い。

(2) 研究の背景

2017 年度、筆者は勤務校で外国語教育の専科教諭を経験した。5・6 年生の外国語活動の授業を行う他、毎週 10 分程度、新学習指導要領の要点や外部研修で学んだことなどを伝えるために校内研修を行った。米沢市内の小・中学校の教員が集まる研究発表会で本校の外国語活動における取り組みを発表すると、他校の教員から「専科がいる学校はいいけれど、担任が全てを背負う学校は大変だ。どうかならないか。」という切実な声が聞かれた。そこで、校内研修で説明した資料を、米沢市の小学校・中学校の教職員と市教育委員会の方が見られるように、同市で活用しているグループウェア上の掲示板に掲載する取り組みを行ってきた。

また、山形県が目指す英語教育の方針として「山形県英語教育改善プラン」(山形県教育委員会、2017)において、「自分を表現! 郷土を発信! 『英語を用いたコミュニケーション能力』の育成」を掲げている。

これらのことから、外国語教育に関する情報や、地域の特色を活かした教材を、市内の教員で共有する取り組みが必要ではないかと考えた。

(3) 地域に根差した教材に関する実践事例

① 地域の民話を英訳した教材

高野、他(2018)は、山梨県に伝わる民話を易しい英語で書き直した劇や教材を作成した。日本語訳や挿絵を入れて児童の理解を促したり、親しみやすさを与えたりするなどの工夫を行った。図書館や希望する小学校に無償で配布をしている。現在は、小学校の教員向けに、この教材を有効に活用するためのセミナーを開催している。

② 「ふるさとカルタ」を通した小・中英語教育の接続と連携の試み

西垣、他(2017)は、浦安市教育委員会と市内の小・中学校の教員らとともに、浦安市の名産物や文化、観光地、交通機関などに関する「浦安ふるさとカルタ」を作成した。絵札は、カテゴリと名前が英語で表記され、写真が添えられている。読み札は、異なる難易度のヒントが 10 個以上掲載されている。小学校でも中学校でも同じ教材を使用することで、学習に対して安心感を覚えたり、自分の成長を感じたりした児童生徒が多かったと結論付けている。

③ 鶴岡市の取り組み

鶴岡市では 2015 年から 3 年間、文部科学省委託「外国語教育強化地域拠点事業」として、山形県小中高大連携プログラムに取り組んだ。2017 年の 12 月に、その集大成として公開授業研究会が開催された。6 年生では、「伝えよう! 鶴岡の宝物」という単元を設定して鶴岡市の名所や名物について紹介し合う活動を行った。4 年生では、「天神祭りの踊りを伝えよう」という単元を設定し、地域に伝わる踊りを ALT に伝える活動を行った。

どの学年の児童も、伝える相手や目的を意識しながら、英語でコミュニケーションを図るための努力をしていた。

(4) 教材をインターネット上で共有することに関する実践事例

① 小学校英語支援コミュニティサイト

萬谷(2011)は、インターネット上の小学校英語支援コミュニティサイト「CELENET」を作成した。小学校外国語教育に関して教師のための「情報・意見の交換の場」となっており、各種サポートを提供することを目的としている。

② 山形市のポータルサイト

山形市は、学校の中からアクセスできる教育用ポータルサイトを作成している。外国語のページでは、文部科学省が提供した教材の *Let's Try!* や *We Can!* がダウンロードできる他、ネイティブスピーカーによる絵本の読み聞かせの動画も視聴することができる。

(5) 本研究の目的

外国語教育に関する資料や教材を市内の小・中学校で共有することにより、教師の指導に対する不安感を軽減することや、児童が中学校に進学する際、英語力のばらつきを解消する一助となることを目指す。今年度は、学校現場の声を反映した内容にしていくため、外国語教育に対する教員の意識調査を行い、共有するための仕組みを検討する。来年度以降、実際に活用していく。

2 研究の方法

(1) 勤務校と近隣の小学校の教員に、自由記述によるアンケート調査を行う。(2018年12月)

(2) 米沢市教育委員会の担当者(外国語教育担当とICT担当の2名)とグループウェアにおける掲示板の活用について協議する。(2018年12月)

(3) (1)の調査をもとに、コンテンツを作成し、掲示板に掲載する。(2019年3月～)

(4) (1)の調査をもとに作成した選択式のアンケートを用いて、同市の教師の意識調査を行う。(2019年4月)

(5) 米沢市の小学校の教員に、掲示板に掲載した資料や教材を実際に使用してもらう。随時聞き取り調査を行い、コンテンツの改訂に活かす。(2019年4月～)

(6) 本研究に対する成果と課題についてまとめのアンケート調査を行う。(2019年12月)

3 小学校外国語教育に対する意識調査

(1) 方法

① 対象

筆者の勤務校と、米沢市内の1校の全教員

② 手続き

自由記述によるアンケートを実施する。質問項目は「小学校外国語教育に関して知りたいこと」「指導をする際に困っている、もしくは困りそうだと思うこと」「外国語を指導する際にあったらよいと思われる教材や準備物等」の3つである。

(2) 結果と考察

① 「小学校外国語教育に関して知りたいこと」についての結果(抜粋)

- ・各学年でどこまで身につけていると良いか
- ・大事な指導項目がたくさんあると思うが、その中でも特に大切にしなければいけないポイントは何か
- ・「今」の英語教育に関する情報を知りたい
- ・日常的に英語が飛びかう教室にするために効果的な指導法はないか。
- ・アルファベットや単語や文を書けるようにする指導法
- ・簡単で楽しいゲームやアクティビティ
- ・他地区や優れた教員の実践を知りたい
- ・評価についてどのようにしたらよいかわからない
- ・中学校英語との関連
- ・教師が指導する際に必要とされる英語のレベルはどの程度か

② 「指導をする際に困っている、もしくは困りそうだと思うこと」についての結果(抜粋)

- ・教材や準備物によって、子どもの興味や習熟に大きく差が出そうだが、準備をする時間がない
- ・今は専科の先生がいるが、自分で授業をする場合は準備や評価が負担である
- ・小学校で身につけておくべき学習内容を市全体で統一して明確に示してほしい
- ・英語教育について専門的に履修をしたことがないため、不安である
- ・英語の指示がパッと浮かんでこない
- ・正しい発音で話しているかどうか、わからない
- ・ALT とのコミュニケーションが苦手である

③「外国語を指導する際にあつたらよいと思われる教材や準備物等」についての結果(抜粋)

- ・カードや掲示物
- ・歌やゲームなどの教材
- ・「書く」活動で使用するためのプリントやワークブック
- ・教師が発音を学ぶための DVD
- ・教員の指導力の向上を目指した研修
- ・今の教材をとことん使うので、特に必要なし

④アンケート結果の考察

研修不足により、英語を指導することや自分自身の英語力について不安を持っている教員が多いことがわかった。特に発音に関して苦手意識を持っている。また、授業の準備をすることについて「負担」という言葉を使って回答する教員もいた。

現段階で文部科学省は、基本的には学級担任が外国語の授業を行うことを推奨している。そのため、各学校で数人の外国語担当教員が講習を受けるだけではなく、全教員に外国語教育に関する情報を周知させる必要がある。

また、昨年度校内研修を複数回受けた勤務校の教員とそれ以外の小学校では、アンケートの記述内容に違いが見られた。研修を受けた教員の方が、より具体的に記述する傾向が強かった。これは、小学校外国語教育の目的を正しく理解しているからではないかと考える。

4 グループウェアについて

どのような形で情報を共有していくか、米沢市教育委員会の小学校外国語の担当者と ICT の担当者と協議を行った。

研究当初、操作性のあるホームページを新たに作成することを考えていた。しかし、セキュリティの面で問題が発生する可能性があるため、この案は棄却された。また、米沢市で共有しているサーバーのフォルダに掲載していくことも検討した。しかし、ダウンロードをする際に、パソコンの誤操作により蓄積したデータが消えてしまう可能性があるため、この案も棄却された。

そこで、米沢市の全ての小・中学校がグループウェアとして使用している校務支援ソフト「スズキ校務シリーズ」を活用することとした。グループウェアとは、企業など組織内のコンピュータネットワークを活用した情報共有のためのシステム

である。本市では、既にこのシステムで出席状況の確認、通知表の作成、体力テストのデータ処理、メールの送受信等を行っている。

このシステムの一つに、「掲示板」がある。これは、学内用と学外用に切り替えることが可能である。本研究で情報の共有のために使用するの、学外用の掲示板である。テキストとワードやエクセルなどのファイルが添付できるようになっている。また、閲覧する際は、キーワード検索をすることや 50 音順にソートをかけて利用することが可能であり、必要な情報を簡単に検索することができる。



図1 スズキ校務のホームページより 活用例

5 掲載するコンテンツについて

掲示板に掲載する情報については、アンケートの結果や、米沢市教育委員会との協議の結果を加味して、下記のような内容を想定している。

- ・地域に根差した教材（ピクチャーカード、指導案、アクティビティ、ゲームなど）
- ・クラスルームイングリッシュ集
- ・文部科学省や県教育委員会・市教育委員会から通達されている外国語教育に関する資料
『『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』、移行措置に関する資料、新教材の指導案、年間計画など）
- ・校内研修で活用できる資料
（昨年度作成した校内研修の資料を改訂する）
- ・外国語教育に役立つリンク集

文部科学省の教師用のページでは、*Let's Try!* と *We Can!* に関する指導案、ワークシート、年間計画等をダウンロードすることができる。しかし、この情報を知らない教員が非常に多い。これらのことを周知するための働きかけが必要であると考

える。

地域に根差した教材については、単元3つ分程度の言語材料を複合的に活用できるようなものを作っていきたい。児童が学習内容を自分の事として捉え、主体的に取り組むことができるように米沢市の特色を活かした教材を作成する。

本市では、3・4年社会科副読本として『わたしたちの米沢』、道徳郷土資料として『ふるさと米沢の心』がある。教科横断的な視点から、これらの教材とも関連付けて教材を作ることが効果的であると考えられる。

来年度、教材開発をする時には、特に米沢市の特色について扱っていく予定であるが、他の市町村でもキーワードを入れ替えて活用できるような教材も開発していきたい。

6 全体的考察

(1) 教員の研修について

アンケートの結果より、多くの教員が指導をすることに対する不安や、教材研究に対する不安を抱えていることがわかった。外国語教育について最新の情報を知りたいと思っている教員も多い。しかし、全教員が講習を受ける機会や時間が取れないことが実状である。グループウェア上の掲示板に資料を掲載することで、各教員が自由に閲覧し、自身の研修や授業に活かすことができるのではないかと考える。

(2) 教材について

グループウェア上に教材があれば、教員が必要ときにダウンロードして利用することができる。また、地域に根差したものを教材として扱うことで、児童が主体的に学習に取り組むのではないかと考えた。

(3) 今後の課題

現在、外国語教育に関する資料や、地域の特色を活かした教材を作成しているところである。勤務校の管理職や、米沢市教育委員会と連携をとりながら、随時掲示板に情報を掲載していく予定である。また、来年度、筆者が小学校で外国語の授業を実際に行う中で、地域の特色を活かした教材が、児童の主体性を育んでいるかどうかを検証していく必要がある。

将来的には、教材が「共有」の「財産」の「共財」となるように、他校の教員の実践例も共有するための仕組みづくりを行っていきたい。

学習指導要領の移行期間に、5・6年生で使用する教材は文部科学省が作成した *We Can!* であるが、2020年度からは「外国語活動」から「外国語科」の教科になるため、教科書会社が作成した教科書を使用することになる。それに対応して適宜教材を改訂する必要がある。

今年度作った情報を共有するための枠組みを土台に、米沢市内の教員の小学校外国語教育に対する理解が深まり、より充実した授業実践につながるように、引き続き研究を続けていく。

参考文献

- 文部科学省(2017)『学習指導要領(平成29年告示) 解説 外国語・外国語活動編』, 開隆堂.
- 文部科学省(2017)『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』, 旺文社.
- 西垣知佳子・山下 美峰・高橋 直美・田村 敦(2014)「小・中英語教育の接続と連携の試み—小・中学校で活用できる共通教材の試作と試用—」, 『日本英語教育学会第43回年次研究集会論文集』, pp. 63-69.
- 高野美千代・ピーターマウントフォード・徳永明美・高橋涼太(2018)「小学校英語教育のための地域教材作成の試み」, 『山梨国際研究 山梨県立大学国際政策学部紀要』, No. 13, pp. 81-90.
- 鶴岡市立朝陽第五小学校外国語教育公開授業研究会資料(2017年12月1日).
- 山形県教育委員会(2015)『第6次山形県教育振興計画』.
- 山形県教育委員会(2017)『山形県英語教育改善プラン』.
- 米沢市教育委員会(1995)『道徳郷土資料 ふるさと米沢の心(小学生版)』, 羽陽印刷.
- 米沢市教育委員会(1995)『小学校3・4年社会科副読本 わたしたちの米沢』, 羽陽印刷.
- 萬谷隆一(2011)「小学校英語支援コミュニティサイト CELENET の試み」『日本英文学会北海道支部第54回大会, 北海道英語英文学』, pp. 70-71.

Toward the Development and Joint Ownership of Teaching Materials for Foreign Language Activities at Elementary Schools ; Utilizing the Groupware of the Yonezawa City Educational Board
Mika FURUKAWA